

大気・水保全技術

オーガナイズドセッション

- (1) 大気汚染防止の新技術
- (2) 地球規模大気保全技術
- (3) 上水・用水
- (4) 下水・廃水

空気調和・冷凍技術

オーガナイズドセッション

- (1) 排熱回収技術
- (2) 省エネルギー(新技術)
- (3) 省エネルギー(ヒートポンプ)
- (4) 新エネルギー(太陽エネルギー)
- (5) 新エネルギー(その他)
- (6) 冷媒・環境関連技術
- (7) 熱輸送技術
- (8) 制御技術

その他に特別講演を予定しています。

オーガナイズドセッション講演申込締切日：

1995年5月31日

日本機械学会誌1月号会告参照のうえ、「研究発表申込書」に必要事項を記入して、各セッションのオーガナイザー宛直接お申込みください。

論文原稿締切日：1995年8月25日

論文原稿提出先：日本機械学会事業課

本シンポジウムの詳細の問合せ先

〒151 東京都渋谷区代々木2-4-9 新宿三信ビル5階

日本機械学会 環境工学総合シンポジウム係

(担当職員 佐藤秋雄)

電話 03(3379)6781, FAX 03(3379)0934



環境工学部門功績賞を受賞して

塩月隼人
国際航業(株)

このたびは日本機械学会環境工学部門における功績賞をいただき、身に余る光栄に存じています。

これもひとえに諸先生方、諸先輩の皆様の日頃からのご指導、ご支援のお蔭と感謝に耐えません。

荣誉ある受賞の背景として思い当たるような自覚はありませんが、強いて挙げるなれば次のようなことでしょうか。

たとえば環境工学部門委員会の一員として短い期間ながら企画、運営等の面でのご協力ができたこと、厚生省からの委託研究への参加協力、機械工学便覧C8編の一部編纂でのお手伝い、環境工学部門研究発表会への参画等限られた範囲に過ぎません。

振り返って見ますと、私は(株)タクマ入社以来廃熱ボイラ分野における熱、燃料、燃焼、熱発生、熱機関等を中心に勉強してまいりました。昭和37～38年ごろからは当時まだ未知・未開拓の分野であった都市ごみ焼却に取り組むようになり、気が付いたときには、人生の半ば以上をこの世界で過ごす結果になっていました。

このごみ焼却施設開発の揺籃期からの30年来の研究開発と、ごみ処理技術全般の安定化に向けての諸成果を合わせ評価していただいたの受賞なのかと思う次第です。

焼却プラントの建設に係わる技術は、ご承知のように単なる燃焼、熱回収利用技術にとどまらず、大気、水、騒音、振動等の公害対策をはじめ、化学、電気等を含む広範囲の技術の総合化、集大成になるものであり、私がこの世界に没入する

ことができたこと、また後年もコンサルタントとして今も同様な業務を続けることができていられるのも、諸先生方、多くの諸先輩の励ましとご指導、並びに同僚・後輩諸賢のご支援あつてのことと心から感謝しています。

現今不足する埋め立て地問題の解消に向けての多方面に亘る研究開発と実用化研究、高効率ごみ発電及び未利用エネルギー活用技術の普及等、各分野の研究要請は止まるところがありません。

私としては、この栄えある受賞をバネにさらに研鑽を重ね、また後輩の指導育成に努めることによって斯界の発展にいささかの貢献できればと心に期するものでございます。終わりになりましたが、環境工学部門の益々のご発展を祈念し、御礼のご挨拶といたします。





環境工学部門技術業績賞を受賞して

藤本 忠生
(株)クボタ

この度因らずも、日本機械学会環境部門賞第2回技術業績賞を、平成6年度部門長鍋島淑郎先生より頂戴し、誠に光栄に存じております。

今回の受賞は「都市ごみ焼却残渣の溶離処理」の開発と、「スーパーファイアーシステム」の提案についてであるとのことであります。

前者につきましては、昭和 50 年に技術開発を開始し、基本的な技術の解明、実用プラントへの適用などを行って参りました。特に昭和 59 年度より3ヶ年に亘り実施されました日本機械学会RC-75 委員会では、委員の先生方や同業の技術者の皆様方に色々ご指導、ご示唆を頂きました。お蔭を持ちまして、現在では国内では、ごみ焼却灰、プラスチックなどの可燃物、産業廃棄物、下水汚泥など多様な廃棄物の溶融処理用プラントとして、数々の市町村でご利用を頂くまでになりました。

ました。また、ドイツにも技術輸出を行い、他のヨーロッパの諸国、米国などからも技術輸出の引き合いが参っております。努力の成果が些かでも環境保護にお役に立っているとしますと、皆様方のご指導の賜物深く感謝しております。

後者につきましては、未利用エネルギーの有効利用と言う世の中の要請に呼応し、提唱し、現在実際の焼却炉に付設した実用規模施設により、システムの開発と確認を進めているものであります。堺市で建設を進めさせて頂いている焼却炉付設のガスタービン排ガス活用高効率発電システムと共に、この技術が、世の中の要請に寄与出来得るならば、誠に幸甚に存ずる次第であります。

終わりにりましたが、ご指導賜りました皆様様に深く感謝申し上げますと共に、日本機械学会環境工学部門の益々のご発展を、心からお祈り申し上げます次第であります。



環境工学部門技術業績賞を受賞して

田中 俊光
(株)神戸製鋼所

この度は、栄えある環境工学部門技術業績賞を頂戴致しまして有難う御座居ました。実のところ、受賞に値する業績とはほど遠い活動しかしておらず、はたして頂いて良いものか恐縮し迷いました。しかし、この受賞を今後の精進のための貴い契機とさせて頂こうと厚かましくも拝受させて頂くことと致しました。

私は神戸製鋼に入社以来 21 年間、各種の機械やプラントの低騒音化設計や制振鋼板、制振アルミ材などの防音技術、あるいはこれらの汎用技術としての音場の数値解析技術などの音に対する研究開発に従事してまいりました。

今日、受賞の対象として頂いた建設機械の音質改善技術開発の最初のきっかけは、今から 13 年前、油圧ショベルの設計者から騒音レベルを下げて出した新規開発車の騒音クレームの原因究明の相談をもちかけられた時に遡ります。現象を単純化して検討を加えるため、油圧音やエンジン音の卓越周波数成分を模した発振機音を合成していろいろと周波数を変え聴

感試験を行いました。濁って聞こえたり、あるいはそうでなかったりに新鮮な驚きを覚えると同時に強い印象が残りました。最近のフルモデルチェンジ機の開発の際に、それまでで暖めて来た本技術を反映できる機械が生まれ、その時の開発研究の一部を発表させて頂いた次第です。

21 世紀をにらんだ技術開発の中で、住み良い環境を作り出す環境技術は、生活を守り質を高めていく上で一段と重要度を増しています。さまざまな立場で聞かれ種々の特徴をもつ機械の音を、環境に優しい音へ、さらには魅力ある音へと騒音の程度のより軽い機械へと改良していくことが、機械の音屋に課せられた技術課題の一つであると強く感じており、今後も努力していきたいと思っております。

最後になりましたが、この度の受賞に際し御世話になりました鍋島先生はじめ諸先生方、及び一緒に本研究開発を進めて来た弊社研究及び設計部門の方々に御礼を申し上げます。